

## 研究会提言のフォローアップを更に進めます

## ごあいさつ

明けましておめでとうございます。NEWS LETTER第4号をお届けします。昨年9月以降始まった各地での提言報告会の開催、WG活動などを踏まえて、今年は海外水ビジネス研究会の提言のフォローアップを更に進めます。NEWS LETTERは、引き続き、皆様への情報提供の場として随時発信して参りますので、よろしくお願いいたします。

## 4th APWS(熊本) の情報

第4回アジア・太平洋水サミットについての情報が公開されています。

<http://apwf.org/kumamoto-2020-jp/>

【開催日】2020年10月19日(月)～10月20日(火)

【場所】熊本城ホール

開会式：4Fメインホール、分科会：3F会議室、サイドイベント：2Fシビックホール、展示：1F展示ホール、閉会式：4Fメインホール

## 4th APWS全体のプログラム(案)

	2020年10月19日(1日目)		2020年10月20日(2日目)	
午前	登録 開会式： ・ 開催国、開催市からの挨拶 ・ 前回開催地からの挨拶 ・ 基調講演		分科会(3セッション)	サイドイベント
			分科会(3セッション)	サイドイベント
昼	昼食		昼食	
午後	元首・首脳級 円卓会議 ・ 宣言文書採択	サイドイベント	分科会(3セッション)	サイドイベント
	元首・首脳級による ステートメント	サイドイベント	分科会(3セッション)	サイドイベント
夜	レセプション (ハイレベルと一般、並行開催)		閉会式： ・ サミット2日間の総括 ・ 第5回APWSの案内 ・ 各分科会等からの報告 ・ 閉会挨拶	
終日	展示		展示	

テーマ：「持続可能な発展のための水～実践と継承～」

## 第2回規制改革等WGを開催しました

規制改革・自由化・PPP・民営化WGの第2回ミーティングを12月19日にオリーブ会議室で開催し、6名が参加しました。工藤さんから旧3公社5現業の歴史と改革等の報告とイアンブレマーの「対立の世紀」の要点、今井さんからヤーギンの「市場対国家」の要点を聴きました。また、今井さんからはCOP25に関連して、「気候変動対策は成長のチャンス」というジョセフ・スティグリッツ氏(米国コロンビア大学教授)の連載記事(日経ビジネス)の紹介もありました。

【オリーブ会議室@神保町】

<https://www.instabase.jp/space/3326099469/catalog>

## 今後の活動予定

- 1月8日(水) シュタットベルケ等についての打合わせ、10～12時、@東京電力会議室
- 1月8日(水) ベトナムWGのケーススタディについての打ち合わせ ランチミーティング @新橋近辺
- 1月16日(木) 第3回ベトナムWG 12時～14時 @オリーブ会議室(神保町)
- 1月17日(金) JBIC元ハノイ首席駐在員との打ち合わせ 11:30～ @学士会館
- 2月20日(木) 第3回規制改革等WGWG 12時～14時 @オリーブ会議室(神保町)

## 神戸でのセミナー（提言報告会）の実施（報告）

2019年12月18日(水)神戸市勤労会館で開催された公益財団法人新産業創造研究機構のひょうご次世代産業高度化プロジェクト/第2回セミナーで、海外水ビジネス研究会の提言を取り上げていただきました。

海外水ビジネス研究会からは、共同代表山村尊房（W & E研究所代表）、共同代表工藤克典（貿易投資金融アドバイザー）、山口岳夫（水道技術経営パートナーズ株式会社代表取締役）の3名が講師として参加し、続いて、地元代表として長塩大司様（阪神水道企業団総務部長）、松下眞様（神戸市水道局計画調整課 担当課長）、田路明宏様（神鋼環境ソリューション水環境本部海外水処理室長）にもご参加いただき、「日本の海外水ビジネスの今後」について、講師と地元水道産業界の関係者によるパネルディスカッションが行われました。

先ず、第1部では、講師から「海外水ビジネスの必要性と推進への提言」（山村）、「海外水ビジネスのストラクチャーモデルについて」（工藤）、「水インフラビジネスの海外戦略における競合の検討」（山口）について発表が行われました。

続くパネルディスカッションでは、地元代表3名の方々の自己紹介を兼ねた関心事項の発表の後、「提言」への感想、神戸発の海外水ビジネスの今後、海外プロジェクトの人材育成上の効果、公民連携の推進を中心に議論が行われました。特に、企業側から出席していただいた田路氏から「海外への展開を事業ドメインの一つの柱ととらえ取り組んでいるが、理想と現実ではかなりのギャップもあり苦心している。こうした中で、最初は国内から機器を単に輸出するだけであったが、その後EPCに展開した。しかし、汎用的な技術ではEPCだけでは競争が厳しかったので、O&Mを付けて取り組むことになり、更に自ら投資をする取り組みに進んだ。ベトナムやカンボジアに根を下ろして取り組んだ結果、自ら投資をして現地企業との合併ができた。ローカルに根付いて中長期的に取り組むことにして、安価なものは現地で購入して、当社は全体のマネジメントとビジネスに注力していくことに重点を置いた。」という発表が注目を集めました。

**神戸を含めた3つの提言報告会の総括は、水道公論2月号に「海外水ビジネス研究会」提言発表（2019.7.27）後の反響を観る」として掲載される予定。**

## 雑誌「水道公論」の掲載記事

水道公論への連載状況は右下のQRコードからご覧ください。

## (幹事会通信)

海外水ビジネス研究会のホームページの「3年目の活動」を紹介したページにジャンプすることができるQRコードを設定しました。記事の中で「QRコード参照」と書かれた記事の詳細は、このページ右側のQRコードを読み取って表示されるページをご覧ください。なお、QRコードを読めない方は、直接、<http://weri2013.jp/profile1001001.html>を入力し「3年目の活動」をクリックして専用ページに進んでください。

